

小松市内活性化をねらいとした小松市の食ブランド企画参加

学生団体名 うらら こま探's (小松短期大学)

参加学生 村本滉貴 (部長)・川野慎平 (副部長)・橋本圭司 (副部長)・山川貴弘 (会計)・
吉田 要 (書記)・嘉野 希, 他 16 名

1. 地域活動の概要

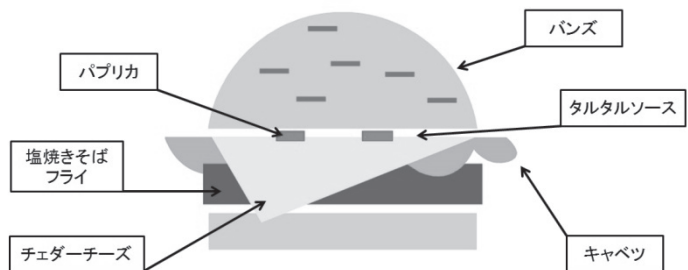
うらら こま探's は、4 年前に地域を活性化するために結成されたサークルで、今年度は、小松の食材を使ったオリジナル商品の開発をして、県内のイベントに参加しながら小松の良さを PR したり、イベント会場などで救急救命が必要になった場合の対応ができるように、救命講習会に参加したりしてきた。最近では、新しい食ブランドの開発に着手し、「ポーの塩焼きそば」が完成したので合わせてここに報告する。

2. 地域活動の具体的な内容

・学園祭(どんどんまつりと共催)に出店

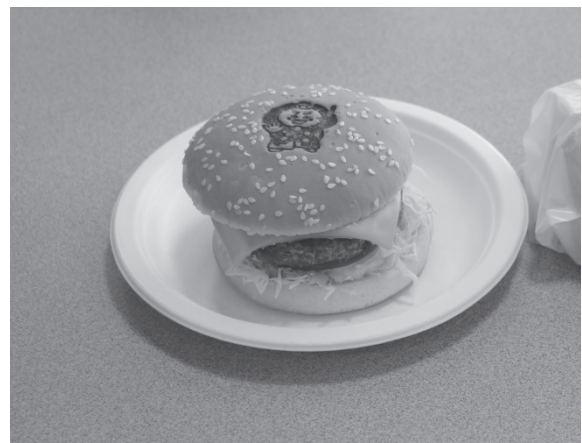
小松市の大きなイベントであるどんどんまつりと、本学の学園祭が共催し、小松駅前商店街付近で昨年度開発したカブキバーガーの販売を行った。カブキバーガーは、具に塩焼きそばを使い、それをフライにして、タルタルソースで味付けをしている。

フライ以外に、キャベツ、チェダーチーズ、そして彩りと食のアクセントを考えてパプリカを挟んでいる。今年度は、バンズにカブッキーの焼き印を押したり、バーガーの具を調整して、親しみが湧くような工夫をした。



活動日時 2013 年 10 月 13 日 (日)

学生及び住民の参加者数 学生 22 名, 住民 約 5,000 人



・食のてんこもりフェスタ 2013 に参加

金沢市の産業展示館 (3 号館) で行われた、県内の食の祭典に学生部門として参加した。包装紙にカブッキーのシールを貼って小松の PR を図り、プロの飲食店に負けない味とサービスに努めた。

活動日時 2013 年 11 月 17 日 (日)

学生及び住民の参加者数 学生 22 名, イベント参加者 約 7,000 人



・救急救命講習会に参加

地域の活動に直接的な関係はないが、イベント会場などで、人命救助が必要になった場合を想定して、小松市消防本部南署に救急救命講習会を開いていただいた。講習会は、基本と上級があり、基本取得は5時間、上級取得には8時間の講習を受けなければならない。講習内容は、人工呼吸、心臓マッサージ、AEDの取り扱いといった実技や、傷の程度を見極めて救急連絡を性格・迅速にできるようにする方法などを学んだ。

活動日時 2013年11～12月

学生及び住民の参加者数 学生 22名



・ポーの塩焼きそば開発

食のてんこもりフェスタの反省会で、カブキバーガーを応用した新しい商品開発に着手することになった。そこで検討されたのが、食べ歩きができる塩焼きそばだった。カブキバーガーの具と同じようにフライにして塩焼きそばコロケにするアイデアが生まれたが、春巻きにくるんで揚げることにした。具には、塩焼きそば以外に、刻み紅ショウガや小エビを入れ、好みに合わせてベーコンやチェダーチーズも入れられるようにした。

商品名は「ポーの塩焼きそば」とした。由来は、棒状であるのと、イタリア語でおいしいを意味する「ポーノ (Buono)」をひっかけた。



3. 地域活動の成果

小松では焼きそばというと塩焼きそばが定番だが、他の地域ではソース焼きそばが普通であることから、塩焼きそばで小松らしさをPRすることにこだわってきた。小松市民が食べ慣れた塩焼きそばを別のカタチで表現し、市民も楽しんでもらったのはよかった。カブキバーガーというネーミングはインパクトがあったようで、金沢で行われた「食のてんこもりフェスタ」では、看板を見て明らかに「カブキ」という単語に目をやっていた。

このことから私たちの活動で、小松市だけでなく他の市町村へのPR活動ができたことは大きかったと思う。もちろん、小松市民との交流を深めることができたのは一番の収穫であり、小松の食材を使ったことで、間接的に小松の経済に貢献できたこともよかったのではないと思う。

4. 来年度の地域活動計画

新商品の「ボーの塩焼きそば」は、どんどんまつりや食のてんこもりフェスタで披露していないので、まずそこでの反応がみたい。大きき的には、食事というよりはスナック感覚のお菓子に近いと考えている。よって、販売時間帯や味付けなどの工夫が必要であると感じている。

開発に時間がかかったため、当初予定していた、小松駅前マップのリニューアルに着手することができなかった。よって、来年度はマップ作成にも積極的に取り組みたい。

5. 学生の感想

- ・今まで、地域貢献をしたことが無かったが、このサークルに参加してみて、地域の方々の心の温かさに触れることができ、小松市への愛着心が深まった。
- ・昨年カブキバーガーを食べておいしかったので、今年も買いに来たと言われたときは、今年もやってよかったと感じたと同時に、先輩の努力があればこそ今があると思った。
- ・食品作りは大変だし、怪我をすることもあった。食品提供を商売としている人たちの大変さがわかったのと、食材の調達や味を一定にするには経験が必要だと感じた。
- ・製品を販売するために、店の前で声がけをしたが、人とコミュニケーションを取るには、自分の殻を破る勇気が必要であることがわかった。
- ・ひとりでは何もできないが、みんなで力を合わせれば、大きな活動として認めてもらえるし、認められる喜びも感じることもできたので、やってよかったと思った。
- ・小松には、トマトや小松うどんなど食材が豊富なので、新しい食品作りを考えるのが楽しい。それを具現化するには、いろいろな人の知恵やとりあえずやってみるという行動力が必要だ。自分もその一員として活動できたことは嬉しい。

6. 地域活動に対する地域からの評価

- ・若い人の感性でできあがったカブキバーガーは感心した。おまつりのときだけでなく、いつでも買えるようにして欲しい。
- ・シャッター街となっている地域だが、アーケード内に若い人の声が響くと胸が高鳴る。小さいイベントでもいいので、参加して欲しい。
- ・一生懸命さが伝わって、つい買ってしまった。そういうエネルギーを吸収させてもらった。味は期待していなかったが、おいしくて驚いた。
- ・地域は学生の行動力に期待している。何事も失敗を恐れずにやって欲しい。地域も学生の活動を積極的に受け入れていきたい。